本文

特 3|3|3|2

官報 第三千三百三十二號 明治二十七年八月七日 火曜日 内閣官報局

○告示

内務省告示第九十九號

一支明之利器　岐阜縣岐阜市大字富茂登四十九番戸　松田　德義　發行

右出版物ハ其第十一號記載ノ事項出版法第二條ノ範圍外ニ渉ルモノト認ムルヲ以テ自今同法ニ依リテ出版スルコトヲ差止ム

明治二十七年八月七日　内務大臣　伯爵井上馨

内務省告示第百號

一學燈　神奈川縣横濱市元濱町四町目三十六番地　矢田　萬吉　發行

右出版物ハ其第三卷第十號記載ノ事項出版法第二條ノ範圍外ニ渉ルモノト認ムルヲ以テ自今同法ニ依リテ出版スルコトヲ差止ム

明治二十七年八月七日　内務大臣　伯爵井上馨

海軍省告示第十號

佐世保軍港及對州竹敷港竝仁位口ニ出入スル普通船舶心得左ノ通定ム

明治二十七年八月七日　海軍大臣　伯爵西鄕從道

佐世保軍港及對州竹敷港竝仁位口ニ出入スル普通船舶心得

第一條　佐世保軍港對州竹敷港竝仁位口ニ出入スル普通船舶ハ左ノ通心得ヘシ

其一　汽船

佐世保軍港對州竹敷港竝仁位口ニ入港セント欲スル普通船舶ハ佐世保ニ於テハ港口凡ソ一海里ノ所對州竹敷港竝仁位口ニ於テハ同所淺海灣芋崎沖ニ於テ進行ヲ止メ長汽笛三聲ヲ發シ要招水先旗ヲ揚クヘシ然ルトキ佐世保ニ於テハ向後崎對州ニ於テハ四十八谷見張所ニテ萬國信號ノ應信旗ヲ揚ケ嚮導船ニ通知スヘシ

嚮導船ハ此ノ通知ニ依リ水路嚮導ヲ爲スヘシ

其二　帆走船

帆走船ハ汽船ト同一ノ所ニテ踟躕ヲ爲スヘシ各其見張所ハ帆走船ノ踟躕シタルヲ見テ前ト同一ノ應信旗ヲ揚ケ嚮導船ニ通知スヘシ

嚮導船ハ此ノ通知ニ依リ水路嚮導ヲ爲スヘシ

第二條　普通船舶ニシテ佐世保軍港ヲ出港スルトキ汽船ニ在テハ港内鹿崎ヲ廻ハリ港口ニ針路ヲ向ケタルトキ長汽笛三聲ヲ發スヘシ帆走船ハ港内俵ノ浦沖ニ於テ踟躕スヘシ

嚮導船ハ此ノ汽笛若クハ踟躕ニ依リ水路嚮導ヲ爲スヘシ

竹敷港竝仁位口ヲ出港スル汽船及帆船トモ竹敷ニ於テハ其旨要港知港事ニ通知スヘシ仁位口ニ於テハ汽船ハ港内ニ止マリ長汽笛三聲ヲ發シ帆船ハ同港内ニ於テ踟躕スヘシ

見張所ハ之ニ對シ應信旗ヲ揚ケ嚮導船ニ通知スヘシ

第三條　普通船舶ハ本令發布ノ日ヨリ日沒ヨリ日出マテ佐世保軍港及對州竹敷港竝仁位口ニ入港スルヲ禁ス

○敍任及辭令

○明治二十七年八月六日

任領事官補　外務省翻譯官從七位　神屋　三郎

敍高等官七等　領事官補從七位　神屋　三郎

任領事官補　領事官書記生　清水精三郎

敍高等官七等　領事官補　清水精三郎

任外務省翻譯官　外務省翻譯官　陸奥　廣吉

敍高等官七等　陸奥　廣吉

免本職補姫路衞戍病院附　歩兵第十聯隊附陸軍一等軍醫　上原　惟善

免本職補歩兵第十聯隊附　姫路衞戍病院附陸軍一等軍醫　伊島　惟正

（各通）　歩兵第二聯隊附兼佐倉衞戍病院長陸軍二等軍醫正　森岡　愿益

野戰砲兵第三聯隊附陸軍三等軍醫　加藤　良明

休職被仰付　陸軍砲兵大尉　吉田　邦彦

賜一等給（以上八月四日陸軍省）　陸軍省人事課々員陸軍歩兵大尉　永田　寛彰

第一師管軍法會議判士ヲ免ス（以上八月五日同）　陸軍歩兵大尉　神谷　景昌

第一師管軍法會議判士ヲ命ス　陸軍歩兵大尉　鴨下松次郎

秋田山形兩縣下巡廻ヲ命ス（八月六日農商務省）　農商務技師　石橋　絢彦

東北海岸各處航路標識巡廻ヲ免シ長崎縣下ヘ出張ヲ命ス（八月遞信省）　航路標識管理所技師工學博士

○宮廷錄事

○皇族出發　禎子女王殿下ハ本月三日出發栃木縣下日光地方ヘ旅行アラセラレタリ

○彙報

○官廳事項

○官吏發著

曩ニ御料局名古屋詰岡兩支廳及度會御料地ヘ出張ノ御料局技師神足勝記ハ本月二日曩ニ京都ヘ出張ノ閑院宮家令田中建二郎ハ同三日孰モ歸京セリ

曩ニ東京府及神奈川、群馬兩縣下ヘ出張シタル震災豫防調査會委員大森房吉ハ去月十七日歸京セリ

山脇行政裁判所評定官ハ昨六日出發神奈川縣三浦郡田越村ヘ旅行セリ

○英國局外中立　本邦駐劄英國臨時代理公使ラルフ、エス、パジェットハ本國政府ノ訓令ニ據リ日清兩國間戰爭起リタルニ附キ英國政府ハ直ニ局外中立ノ布告ヲ發スルノ存意ナル旨ヲ其筋ヘ通知セリ

○小學校圖書審査委員　神奈川縣ニ於テハ書記官三橋信方ニ小學校圖書審査委員長ヲ尋常師範學校長須田辰次郎、縣會常置委員鈴本稻之助、同森鍬三郎等ニ同委員ヲ命セリ

○收稅署移轉　秋田縣本莊收稅署ハ從來由利郡本莊町田町ニ設置ノ處本月一日同郡同町肴町四十二番地ニ移轉セリ

○出張所移轉　熊本地方裁判所管內熊本區裁判所川尻出張所去月二十九日所在町三百四番地ヘ移轉セリ

○華族薨去　從三位子爵冷泉爲柔ハ本月二日薨去セリ

○官吏死去　陸軍歩兵少佐從六位勳四等古志正綱ハ去月二十五日死去セリ

司法及警察

○破產管財人任命　大分縣平民安部新平同山田昇三郎ハ大分地方裁判所管內破產管財人ヲ孰モ本月三日命セラレタリ

○公證人兼管　岡崎區裁判所管內公證人山田正勝ハ本月四日ヨリ西尾區裁判所管內ヲ兼管シ事務ヲ取扱フ

○解停　曩ニ發行ヲ停止セラレタル大阪每日新聞竝ニ二見新聞ハ今七日ヨリ解停セラル

○出火　北海道及神奈川縣ニ於ケル出火左ノ如シ

北海道　去月二十六日午前一時北海道渡島國上磯郡濱邊地村ヨリ出火シ戶數四十四戶燒失同三時鎭火セリ　原因詳ナラス

神奈川縣　水月二日午前三時四十分橫濱市居留地六十番館ヨリ出火半燒二棟五時鎭火原因失火ナリ

○陸海軍

○演習　第二師團歩兵第十六聯隊第四中隊ハ去月三十日新潟縣北蒲原郡中浦村大字吉浦地內字諏訪ノ平ニ於テ實彈射擊演習施行（新潟縣）●第三師團輜重兵第三大隊ハ行軍演習ノタメ去月二十五日愛知縣丹羽郡目黑村ニ一泊翌二十六日同郡小折村及榮村ニ一泊翌二十七日歸營セリ（愛知縣）

○憲兵首部及屯所位置　本月一日神奈川憲兵首部及屯所位置左ノ通定メタリ（陸軍省）

一神奈川憲兵首部　神奈川縣相模國三浦郡橫須賀町諏訪六番地

一同橫須賀町屯所　同

一神奈川浦郷村屯所　神奈川縣相模國三浦郡浦郷村田浦八十一番地

一同豐島村屯所　同豐島村深田四十二番地

○軍艦發著　米國軍艦「モノカシー」ハ去月三十日仁川ヨリ長崎港ヘ投錨、英國軍艦「セヴァルン」ハ同三十一日長崎港ヘ投錨同日朝鮮ニ向ヒ拔錨、同軍艦「アンダンテッド」ハ本月一日朝鮮ニ向ヒ長崎港ヲ拔錨セリ（長崎縣）

○日本赤十字社錄事

瑞西萬國赤十字中央社寄付金　日清開戰ノ報早クモ歐洲ニ傳播スル所ト爲リ時ヲ移サス瑞西萬國赤十字中央社ヨリ寄贈金申込ノ電報アリ其厚意寔ニ本社ノ感謝スル所ナリ卽チ其電文左ノ如シ

百「ルーイ」ニ當ル法ニ贈ル中立國ヘモ通知ス

瑞西萬國赤十字中央社長　モアニエー

福岡縣委員部ノ幻燈會　本年五月中本社福岡縣委員部ハ赤十字幻燈演述會ヲ福岡市及小倉町ニ開設セリ其景況左ノ如シ（以上宮內省）

五月十八日福岡市東中洲業樂座ヲ以テ福岡縣委員部出張所ニ充テ場ノ內外ヲ裝スルニ幔幕ヲ以テシ正面入口ニハ赤十字旗ヲ交叉午後八時開會ヲ報スルヤ委員總長岩崎小二郎先ツ開會ノ旨趣ヲ述ヘ次テ本社幹事清水後ハ赤十字事業ノ起原及其歷史歐洲各國ノ實例等ニ就キ熱心ニ演述シ其間挿ムニ數十種ノ映畫ヲ以テス此夕參集ノ社員及布志者無慮二千七百餘名ニシテ場內立錐ノ餘地ナク午後十一時過散會セリ

同月二十一日同演述會ヲ小倉船頭町ニ開ク會場裝飾等ハ略ヽ前會ニ同シ午後八時開會ニ先チ降雨ニモ拘ラス來會ノ人員既ニ八百餘名ニ及ヘリ委員長後藤章臣開會ノ旨趣ヲ報シ續クニ清水後ハ演述ヲ以テシ同十一時散會ス此兩所ノ會ハ共ニ聽衆頗ル夥多ナルモ場內些ノ喧擾ナク終始靜肅ニ傾聽シ孰モ本社ノ主旨ヲ感得シ社業擴張上ニ於テ最モ裨益ヲ與ヘタルヲ知ルヘク爾後陸續入社ノ申込アリト云フ

○學事

○第三高等學校規則　第三高等學校ニ於テ規則ヲ定ムルコト左ノ如シ（文部省）

總則　學科課程

第一條　當校ハ明治二十七年勅令第七十五號高等學校令第二條ニ基キ同年文部省令第十五號第十六號ニ依リ法學部醫學部及工學部ノ三部ニ於テ法律學醫學及土木工學機械工學ノ各專門學科ヲ敎授スルトス

第二條　修業年限ハ各學部各〻四年トス其學科課程左ノ如シ

法律學科課程

	第一年				第二年				第三年				第四年			
	每週授業時間				每週授業時間				每週授業時間				每週授業時間			
國語漢文	六				(五)				(五)				(五)			
獨逸語																
國語																
倫理					二											
法學通論					三											
民法、法例					二				六				五			
民事訴訟法																
裁判所構成法									一				三			
刑法					四											
刑事訴訟法									三							
商法																
計																

憲法行政法

國際法

經濟學

民、刑實習

體操

計

備考　（）印ハ隨意科トス

民、刑實習ノ時間ハ適宜之ヲ定ム

土木工學科課程

	第一年				第二年				第三年				第四年			
	每週授業時間				每週授業時間				每週授業時間				每週授業時間			
國語漢文	(四)				(四)											
英語	(四)				(四)											
數學	六 代數幾何三角術等ノ補遺 球面三角術解析幾何				六 解析幾何 微分積分				六 微積補遺 微分力程式				二			
物理	四				二											
化學	三				二											
地質及鑛物																
畫學	三				二											
測量					二											
力學及圖式力學					一 運動學 分子力學				三 應用力學 圖式力學				三			
機械學																
發動機									五				五			
材料及構造強弱論																
工藝經濟																
發電機及電動機													二			
製造冶金學													一			
機械工學													四			
工場用具論					一											
特別講義																
機械設計實驗及製圖																
體操	三				三				三				三			
計	三九				三九				三九				三九			

備考　（）印ハ隨意科トス

實驗及製圖ノ時間ハ物理化學等ノ實驗、實地測量、圖式力學ノ製圖及工事ノ計畫等ニ充ツ故ニ每週時間總計凡ソ三十九時ト爲ル

第四年級ニ於テハ第一及第二學期ノミ講義ヲ設ケ第三學期ハ卒業計畫及之カタメニ要スル實地研究ニ充ツ

機械工學科課程

官報 3332

備考 (一)印ハ鐵道科トス
機械設計實驗及製圖ノ時間ハ物理化學等ノ實驗實地測量圖式力學ノ製圖機械及工事ノ計畫等ニ充ツ故ニ每週時間總計凡ソ三十九時ト爲ル
第四年級ニ於テハ第一及第二學期ノミ講義ヲ設ケ第三學期ハ卒業計畫及之カタメニ要スル實地研究ニ充ツ

學年學期休業

第一條 學年ハ九月十一日ニ始リ翌年九月十日ニ終ル
第二條 學年ヲ分チテ三學期トス第一學期ハ九月十一日ヨリ翌年一月七日マテトシ第二學期ハ一月八日ヨリ四月七日マテトシ第三學期ハ四月八日ヨリ九月十日マテトス
第三條 年中休業日左ノ如シ

一 日曜日	一 紀元節	二月十一日
一 神武天皇祭	一 春季皇靈祭	春分日
一 神嘗祭	一 春期休業	四月一日ヨリ同月七日マテ
一 天長節	一 創立紀念日	五月一日(本校)
一 新嘗祭	一 夏期休業	七月十一日ヨリ九月十日マテ
一 冬期休業		
一 孝明天皇祭		

入學、在學、退學

第一條 入學ノ期ハ每學年ノ始一回トス
第二條 當校ノ學生タルコトヲ得ヘキ者ハ身體健康品行方正年齡滿十七年以上ニシテ尋常中學校卒業以上ノ學力アル者ニ限ル
但尋常中學校卒業生徒入學志望者募集定員ニ超ユルトキハ特ニ其學科ニ就キ試業ヲ行フヘク若シ前記志望者定員ニ滿タサルトキハ一般入學試業ヲ施行スヘシ
第三條 各部第二年級以上ノ級ニ入ルヲ望ム者アルトキハ先ツ第一年級ニ入ル資格アリヤ否ヤ檢シ次ニ其入ラント欲スル級以下ニ於テ履修スヘキ學科ノ試業ヲ受ケシメ其許否ヲ定ム
第四條 各部學生ニシテ退學セシ者更ニ入學ヲ請フコトアルトキハ詮議ノ上之ヲ許スコトアルヘシ
第五條

入學願書

私儀御校某學部第一年級ヘ(尋常中學校卒業ニアラサルモノハ「御試驗ヲ經テ」ノ六字ヲ加フ)入學志願ニ付別紙履歷書相添此段相願候也

本籍住所番地
現在宿所
族籍及ヒ月主又ハ月主トノ續柄
何 某 印
何年何月生

年 月 日

第三高等學校長 醫學部主事何某殿

履歷書

一學業履歷
一卒業證書寫(尋常中學校卒業ノ者ハ其學校長ノ證明書添付)
一賞罰
右之通ニ有之候也

本籍住所番地
現在宿所
族籍及ヒ月主又ハ月主トノ續柄
何 某 印
何年何月生

年 月 日

第三高等學校長 醫學部主事何某殿

第六條 各部ニ入學試業ヲ要スル者ハ受驗料金三圓ヲ納ムヘシ
但シ既納ノ受驗料ハ受驗者ノ都合ニ依リ入學願ヲ取消スコトアルモ之ヲ返付セス
第七條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ總テ入學料金一圓ヲ納ムヘシ
但シ一旦退學セシ者更ニ入學スルトキモ入學料ハ納ムヘキモノトス
第八條 入學許可ヲ得タル者ハ醫式ヲ行ヒ學生簿ニ記名シ且ツ保證人二名ヨリ左ノ書式ニ準シ保證書ヲ差出スヘシ
但シ保證人ハ丁年以上ノ男子ニシテ能ク保證ノ任ニ對フヘキモノトシ且ツ二人ノ內其一人ハ學校所在地(本校ハ京都醫學部ハ岡山)住居ノ者タルヘシ

保證書 (證券印紙貼用)

本籍宿所番地
現在宿所
族籍及ヒ月主又ハ月主トノ續柄
何 某
何年何月生
同 何
同 保證人 何年何月生
保證人 何 某 印
何年何月生

年 月 日

第三高等學校長 醫學部主事何某殿

右之者今般入學ノ御許可ヲ得候ニ付テハ同人在學中ニ係リ一切ノ事件某等ニ於テ引受クヘキコト證テ保證候也
但自後某等宿所移轉或ハ印章相改候節ハ速ニ御屆可申候

第九條 保證人死去若クハ住所ヲ轉スル等ニヨリ其義務ヲ盡スコト能ハサルトキハ直ニ他人ヲ以テ之ニ代ヘ(前條ノ書式ニ準シ更ニ保證書ヲ差出スヘシ)
第十條 保證人四週日以上ノ旅行ヲ爲サントスルトキハ先ツ委任狀ヲ與ヘタル代理人ヲ定メ發遣前ニ其旨ヲ屆出ツヘシ
第十一條 學生退學セント欲スル者ハ保證人連署ノ上願出ツヘシ
第十二條 學生學業不進歩若クハ疾病等ノ故ヲ以テ成業ノ見込ナシトキハ本校ニ於テ認定シタル者ハ醫學部ニ於テ退學ヲ命スヘシ
第十三條 品行不良或ハ校規風儀ヲ紊亂シ其他學生ノ本分ヲ遺ルヽ者ハ停學除名又ハ放校ニ處ス
但シ放校ニ處セラレタル者ハ文部大臣ノ特免ヲ得ルニアラサレハ復校ヲ許サス

授業料

第一條 授業料ハ各學部一學年金二十五圓トス
第二條 授業料ハ一學年分ヲ左ノ如ク三同ニ分チテ上納セシム

第一同	十圓	納付期日 (九月十一日ヨリ二十四日マテ)
第二同	七圓五十錢	納付期日 (一月八日ヨリ二十一日マテ)
第三同	七圓五十錢	納付期日 (四月八日ヨリ二十一日マテ)

第三條 職業ヲ缺キ又ハ學期中半途退學シ或ハ停學ニ處セラレタルモノト雖モ授業料ハ減免セサルモノトス
學校在籍中授業料ハ其出席缺席ニ拘ラス納付期日中ニ上納スルヲ勿論タルヘシ

○産業

○害蟲發生 奈良縣十市郡大福村地方ニ於テ「ツトムシ」發生ノ旨本月四日附ヲ以テ同縣ヨリノ電報左ノ如(農商務省)

縣下十市郡大福村地方ニ方言「ツトムシ」發生シ被害段別三十餘町歩目下驅除中ナリ

○旱魃概況 靜岡縣駿東郡ニ於ケル旱魃ノ概況本月一日附ヲ以テ同縣ヨリノ報告左ノ如シ(農商務省)

管下駿東郡ニ於テハ本年梅雨ノ候降雨極テ少ク旱天打續キシヨリ到ル所田地滋潤用水ニ缺乏ヲ來シ爲ニ挿秧ニ著手スルコト能ハサルモノ二百二町歩ヲ超エ僅ニ挿秧ヲ了セシモ爾後灌漑ヲ爲スコト能ハサルモノ實ニ八百十七町歩餘ニシテ此等ノ稻草ハ皆萎凋枯死セントスル慘狀ナリ其他用水不足ノタメ灌漑上困難ヲ極ムルモノ尠カラス又既ニ挿秧ノ望ヲ絕チ如作ニ變換シ稗、大豆、蜀黍等ヲ播植セシモノ多少之アリト雖モ是レ亦季節ヲ失シタルヲ以テ好結果ヲ見ルコト殆ト無キカルヘシ而シテ本年ノ旱魃ハ其區域二十箇町村ノ廣キニ渉リ之ヲ古老ニ質スニ八九十年來曾テ聞知セサル所ナリト云フ前記ノ通ナレハ今後十分ノ降雨アルモ到底回復スルコト能ハス從テ例年ノ收穫ハ期シ難カルヘシ

○金貨及磅相場 去月三十日ヨリ本月四日ニ至ル一週間金貨及磅相場竝ニ前週比較高低ハ左ノ如シ

日附	金貨(百圓ニ附キ)	正金銀行ノ報告ニ據ル	磅(一磅ニ附キ)	日附	金貨(百圓ニ附キ)	磅(一磅ニ附キ)
三十日	円 九〇〇〇 (午前午後)	円 九六〇〇〇 (〃〃)	円 九六〇〇〇 (午前午後)	三日	円 九〇〇〇 (〃〃)	円 九六〇〇〇 (〃〃)
三十一日	九〇〇〇〇 (〃〃)	九六〇〇〇 (〃〃)	九六〇〇〇 (〃〃)	四日	九〇〇〇〇 (〃〃)	九六〇〇〇 (〃〃)
一日	九〇〇〇〇 (〃〃)	九六〇〇〇 (〃〃)	九六〇〇〇 (〃〃)	平均	八九八三三	九六〇〇〇
二日	八九五〇〇 (〃〃)	九六〇〇〇 (〃〃)	九六〇〇〇 (〃〃)	前週平均比較高低	四一七	二〇

○高岡米穀取引所商況 高岡米穀取引所ノ報告ニ係ル本年六月中同所商況ノ要領ハ左ノ如シ(農商務省)

去月六日本欄內産業ノ部參看

米穀ニ於ケル六月中ノ商況ハ東京米穀取引所立會開始後安直ノ移リニテ下落ノ模樣ナリシカ突然海外出師ノ米報ニ鋒シ相場上氣配ト爲リ加フルニ連日照續キ晷氣甚シク所ニ依リ早損ヲ懼ランカトノ掛念アルヨリ農家一般賣惜ミ爲ニ出米至テ少ク今一層ノ高直ニ進マントスル矣先キ航海船ノ不足ヲ告ケ殆ト輸出ノ路絕ニ且ツ金融非常ニ引締リ旁ゝ以テ相場ハ氣勢極ク自由ニ上騰スルヲ得ス市況不振持合ノ姿ニテ本月ヲ經過セリ而シテ米穀集散ノ模樣ハ輸入米百五十石ニ前月ヨリ持越高一万三千七百五十六石ヲ加ヘ總計一万三千九百六石ノ內ヨリ其總額六千五百三十六石ヲ輸出シ此外市中消費米大凡三千五百石ヲ扣除スレハ翌月ヘ繰越米三千八百七十石ノ見込ナリ而シテ本月中ノ定期實買高及公定相場一箇月ノ平均直段ハ左ノ如シ

限月	數量	賣買高額	最高	最低	平均	平均價
六月	一二、七〇〇石	九八、八四一円二五〇	円 七九二〇	円 七六六五	円 七八〇四	
七月	二四、〇〇〇	一九七、九一一五〇〇	八〇三七〇	八〇一一〇	八〇三四六	
八月	八一、二〇〇	六六七、七三七七五〇	八〇四二〇	八〇〇六〇	八〇二〇五	
計	一一七、九〇〇	九六四、四九〇五〇〇				

○衛生

○傳染病患者 長崎、愛知、山形、秋田、福井、佐賀、宮崎七縣ニ於ケル傳染病患者左ノ如シ

長崎縣 去月二十三日ヨリ同二十九日ニ至ル一週間届出ノ痘瘡患者五人死亡二人)腸窒扶私患者五人死亡二人)赤痢患者百七人死亡十七人(長崎縣)
愛知縣 去月二十二日ヨリ同二十八日ニ至ル一週間届出ノ赤痢患者百三十八人死亡三十四人)腸窒扶私患者三十一人死亡十二人(實布的里亞患者十人死亡三人(愛知縣)
山形縣 去月二十三日ヨリ同二十九日ニ至ル一週間届出ノ死亡數左ノ如シ
發疹窒扶私患者一人腸窒扶私患者三十四人死亡五人(山形縣)
秋田縣 去月二十三日ヨリ同二十八日ニ至ル一週間届出ノ腸窒扶私患者七人死亡三人)實布的里亞患者一人死亡二人(秋田縣)
福井縣 去月二十二日ヨリ同二十八日ニ至ル一週間届出ノ腸窒扶私患者八人死亡二人)赤痢患者十三人死亡一人(福井縣)
佐賀縣 去月二十二日ヨリ同二十八日ニ至ル一週間届出ノ赤痢患者百九人死亡二十二人)腸窒扶私患者七人)痘瘡患者四人(佐賀縣)
宮崎縣 去月二十八日届出ノ赤痢患者六十七人死亡十人)同三十日届出ノ赤痢患者七十一人死亡十一人)同三十一日届出ノ赤痢患者二十三人死亡三人(宮崎縣)

○雜事

○汽船沈沒 本月一日午前二時北海道小樽港淺利榮蔵所有汽船苫前丸(四十八噸)ハ增毛ヘ航海中高島郡祇津村燈臺沖合ニ於テ汽船開益丸ト衝突シ乘客及船員ハ開益丸ノ救助ニテ無事積荷玄米六十俵雜貨二十七箇ハ船ト共ニ沈沒セリ(北海道廳)

○落雷被害 岐阜、岡山、廣島、熊本ノ四縣ニ於ケル落雷被害左ノ如シ

岐阜縣 郡上郡美山村中之保組ニ於テハ去月三十日雷雨劇烈同組人家ヘ落雷シ男一人震死セリ(岐阜縣)
岡山縣 去月二十八日小田郡美山村大字大倉ヘ落雷居宅燒失セリ(岡山縣)
廣島縣 安那郡下賀茂村ニ於テ去月二十五日落雷牡馬一頭即死セリ(廣島縣)
熊本縣 託麻郡元三村字方指崎ニ於テ去月二十九日落雷男一名震死セリ(熊本縣)

○公使館及領事館報告

○加拿陀ニ於ケル鐵道及運河事業ノ景況 英領加拿陀ニ於ケル鐵道及運河事業ノ景況ニ附キ在ヴァンクーヴァル帝國領事館事務代理書記生清水精三郎ヨリ本年上月二十二日附ヲ以テ左ノ如ク報告アリ(外務省)

加拿陀領ハ土壤廣漠東西三千英里ニ過キ南北ハ人ノ生息ニ適スル處ノミニテモ五百英里ニ下ラス是故ニ邦土稍ゝ新ニ人口尙ホ稀少ナルニモ拘ラス盛ニ汽車舟楫ノ利ヲ鬻ヒ運輸交通ノ便ヲ謀ルハ實ニ開國ノ必要ニシテ即チ其鐵道及運河事業ノ如キハ大ニ觀ルヘキモノアリ近頃接手シタル中央政府鐵道運河省ノ年報ニ照スルニ其事業ノ細大畧ケテ洩ス所ナシ今左ニ其大要ヲ摘錄シテ參考ニ資ス

鐵道 現今營業中ノ鐵道六十五線アリ支線ハ本線ト合セ一線トシテ計算ス)其既ニ工ヲ竣ヘタルモノ延長一万五千三百二十哩拂込ノ資本金額ハ八億七千二百十五万六千四百七十五弗(內一億八千九百四十三万九百二十二弗ハ政府及市町村ノ補助金ナルヲ以テ株主ノ拂込額ハ六億八千二百六十九万五千五百五十三弗ナリ)昨年六月三十日ニ了ル一週年間ノ總收入五千二百四万二千三百九十七弗事業費三千六百六十一万六千三十三弗純益千五百四十二万六千三百六十四弗、乘客數千三

法文 3333 2 号

百六十一万八千二十七人(人口凡ソ五百万ニ分割スレハ平均一人三回病藥用ノ割合ナリ)運搬物總計二千二百万三千五百九十九噸ナリ

加拿陀中央政府八鐵道事業ノタメ昨年六月三十日マテニ於テ既ニ一億三千四百八十三万餘弗ヲ支出セリ其内譯左ノ如シ

測量建築等政府實施事業ノ費額

「インターコロニアル」鐵道	四七、三五六、一一七
「イースタルン」エクステンション」鐵道	一、三二四、〇四二
「オクスフォールド、エンド、ニュウグラスゴー」鐵道	一、八三三、一二四
「グレープ、ブレトン」鐵道	三三三、九二四
「モントリオル、エンド、ユーロピアン、ショルトライン」鐵道	三、七〇一、一一三

私立會社ヘ交付ノ補助金

加拿陀太平洋鐵道	二五、〇〇〇、〇〇〇
同會社線路擴張補助	一、〇〇〇、〇〇〇
加拿陀「セントラル」鐵道	一、五二五、二五〇

右ハ現金ヲ以テ國庫ヨリ支出シタル高ニシテ此外ニ補助トシテ鐵道敷地又ハ沿道ノ土地ヲ私立會社ニ交付シタル高ハ五千二百四十一万噸(一噸ハ我四段十八歩餘)餘ニ及ヘリ即チ左ノ如シ

加拿陀太平洋鐵道會社	二六、五六八、〇〇〇 噸
「ウヰニペッグ、エンド、ハドソン」灣鐵道會社	八、五八〇、〇〇〇
「マニトバ、エンド、ノルスウエスタルン」鐵道會社	三、〇四六、〇〇〇

右ノ外各州政廳ヨリ補助トシテ交付シタル土地ノ面積ハ左ノ如シ

クエベック州	四、一一八、〇〇〇 噸
ノヴアスコシア州	一五〇、〇〇〇
英領哥倫比亞州	二〇〇、〇〇〇
又中央政府ノ外各州政廳若クハ市町村ヨリ補助金ヲ交付シ又ハ交付ノ約束ヲ爲シタル金高ハ四千八百五十万弗餘ニ及ヘリ即チ左ノ如シ	

オンテリオ州政府	六、九二五、四三二 郡
クエベック州政府	一五、八八〇、〇五一
ニュウブランスウヰック州政府	四、六三三、二八一
ノヴアスコシア州政府	二、三二三、七四四
マニトバ州政府	二、六二四、三六六
英領哥倫比亞州政府	三七、五〇〇
オンテリオ州内市町村	一〇、四五〇、七五〇
クエベック州内市町村	四、三二三、一七四
ニュウブランスウヰック州内市町村	三一、六五〇〇

加拿陀領内政府及市町村ハ鐵道事業ノタメ現金殆ト二億弗ヲ費シ土地五千六百八十八万餘噸ヲ鐵道會社ニ授與シタリ加拿陀太平洋鐵道ニ依リテ當國ヲ旅行シタル者ノ知ル如ク千里無人ノ境ニ鐵道ヲ敷キ汽車ヲ通シ以テ拓地植民與業營利ノ先導ヲ爲シロッキーノ山中山東ノ大原野密林鐵ノ業漸ク開ケ鐵路ニ沿ヒテ新町村ヲ開キタルモノハ何モ該鐵道竣成ノ效ニアラサルハナシ抑ヶ當國ニ於テ鐵道ヲ敷キ大陸ヲ横斷シ一ハ以テ當國ヲ世界ノ大道ト爲サントスルノ策ハ十四五年前既ニ一定シテ謀略動スルコトヲ久シ其延長ヲ總ヶテ倍ム程ナク遂ニ驚ヘキ金額ト土地トヲ抛チテ其業ヲ完成スルニ至レリ其明治七年以後ニ於ケル鐵道延長ノ模樣ヲ見ルニ左ノ如シ

明治七年	四、六四二	噸
同八年	四、八二四	
同九年	五、一五七	
同十年	五、五七四	
同十一年	六、一四三	
同十二年	六、四八四	
同十三年	六、八九一	

鐵道會社ハ加拿陀太平洋鐵道會社ヲ以テ巨擘トシ「グランド、トランク」及ニ次キ官有鐵道及「ウヰニペッグ、エンド、ハドソン」灣鐵道會社ハ又其次ニシテ其他ハ孰モ小會社ナリ即チ左ノ如シ

鐵道名	延長	拂込資本高
加拿陀太平洋鐵道	五、七八四 噸	三〇三、八九〇、七八三 郡
「グランド、トランク」鐵道	三、六八、三三〇、七九六、九六八	七二六〇 噸
官有鐵道	一、三五一	七、二六〇
(備考) 加拿陀太平洋及「グランド、トランク」ノ兩鐵道ニテ運轉シ居ル鐵道線路中驚多ノ會社ニテ造築シタル軌道及車輛ヲ借入レ居ル モノ少カラス即チ加拿陀太平洋鐵道ハ軌道千九百五哩「グランド、トランク」ハ百七十三哩ヲ借用セリ右貸主タル諸會社ノ資本額ハ假ニ借用會社ノ分ト合算セリ又右兩大會社所有線路中合衆國内ニ在ルモノハ本表延長哩數ノ外ナリ		
昨年六月三十日ノ一週年度内諸鐵道ニテ運搬シタル客數ハ千三百六十一万八千二十七人ニシテ荷物ハ二千二百万三千五百九十九噸ナリ其荷物ノ種類及重量ハ左ノ如シ		
麥粉	一、五九二、七三七 噸	明治十四年 七、二六〇 噸
穀物	二、六七五、一七一	同 十五年 七、五三〇
畜類	一、〇九七、一八〇	同 十六年 八、八〇〇
		同 十七年 九、五七六
		同 十八年 一〇、一四九
		同 十九年 一〇、六九七
		同 二十年 一一、六九一

鐵道名	延長	拂込資本高
加拿陀太平洋鐵道	一、五三一	一五、三一〇、八七六、四七五 郡
「ウヰニペッグ、エンド、ハドソン」灣鐵道	四、三六七	一、〇〇三、六〇〇
其他	一、〇〇一、三一九、〇二	三、〇八二、三四五、一三一
合計	一、三三〇、八七六、一五六、四七五	三、四八三、六四一、一七

運河

オンテリオ、イリー、ヒウロン、ミシガン、シュピリオル、ノ領ノ間ニ鑄リ其水ハ相通シテセントローレンス川ニ由リ太西洋ニ注クシュピリオル、ノ湖頭ポルトアーサルヨリ河口ニ至ルノ水路ハ二千二百六十哩ニシテ實ニ天授ノ水利ナリ然レトモ海潮ノ止急激ニ過キ或ハ牛ノ背ノ如キ其他大瀑布ト爲リ次ニ人工ヲ加フルニアラサレハ舟橋ノ利ヲ收ム能ハス是ヲ以テ加拿陀領政府ハ鋭意運河ヲ開鑿シ以テ天與ノ惠ヲ全クセンコトヲ期セリ我國ノ如キ地形狹クシテ長ク内國水運ノ起工スヘキモノ少シト雖モ麗ニ利根運河ノ計畫アリ其他湖川ノ手ヲ下スヘキモノナキニアラス依テ參考ノタメ加拿陀運河事業ノ一斑ヲ報告セントス記スル所固ヨリ大體ニ過キスト雖モ亦以テ其事業ノ一端ヲ窺フニ足ルヘシ	五大湖ハ北米合衆國ト加拿陀領ノ間ニ鑄リ其水ハ相通シテセントローレンス川ニ由リ太西洋ニ注クシュピリオル、湖頭ポルトアーサルヨリ河口ニ至ルノ水路ハ二千二百六十哩ニシテ實ニ天授ノ水利ナリ然レトモ海潮ノ止急激ニ過キ或ハ牛ノ背ノ如キ其他大瀑布ト爲リ次ニ人工ヲ加フルニアラサレハ舟橋ノ利ヲ收ム能ハス是ヲ以テ加拿陀領政府ハ鋭意運河ヲ開鑿シ以テ天與ノ惠ヲ全クセンコトヲ期セリ我國ノ如キ地形狹クシテ長ク内國水運ノ起工スヘキモノ少シト雖モ麗ニ利根運河ノ計畫アリ其他湖川ノ手ヲ下スヘキモノナキニアラス依テ參考ノタメ加拿陀運河事業ノ一斑ヲ報告セントス記スル所固ヨリ大體ニ過キスト雖モ亦以テ其事業ノ一端ヲ窺フニ足ルヘシ
加拿陀領内政府及市町村ハ鐵道事業ノタメ現金殆ト二億弗ヲ費シ土地五千六百八十八万餘噸ヲ鐵道會社ニ授與シタリ加拿陀太平洋鐵道ニ依リテ當國ヲ旅行シタル者ノ知ル如ク千里無人ノ境ニ鐵道ヲ敷キ汽車ヲ通シ以テ拓地植民與業營利ノ先導ヲ爲シロッキーノ山中山東ノ大原野密林鐵ノ業漸ク開ケ鐵路ニ沿ヒテ新町村ヲ開キタルモノハ何モ該鐵道竣成ノ效ニアラサルハナシ抑ヶ當國ニ	
麥粉	明治二十四年 二三〇〇〇 噸
穀物	同 二十五年 二八五三〇
畜類	同 二十六年 三九〇、六二五
	同 二十七年 四九五、七六七
	同 二十八年 五五一、九一一
	同 二十九年 六四〇、七四〇
	同 三十年 一六五〇、六五〇
	同 三十一年 一七四〇、六六〇
	同 三十二年 一八六〇、六六〇

鐵道名	延長	拂込資本高
「カルガリー、エンド、エドモントン」外七鐵道會社	一四四、二三三、一八〇 噸	四、四六八、〇〇〇 噸
計	五二四一七、一八〇	二、〇五四、〇〇〇

麥粉	三、〇五三、八〇二 噸
穀物	九、一〇二、四五一
畜類	二、〇〇三、五九九
製造品	三、〇五三、八〇二 噸
其他	九、一〇二、四五一
合計	二、〇〇三、五九九

木材 (「ウヰニペッグ、エンド、ハドソン」灣鐵道)	六五〇 噸
其他	一、〇〇三、八〇〇 郡
合計	一五、三一〇、八七六、四七五 郡

小計	九六、四九一、二六五
同 二十年	一四、五八八
同 二十一年	一四、〇〇九
同 二十二年	一四、五八八
同 二十三年	一四、〇〇九
同 二十四年	一四、五八八
同 二十五年	一四、五八八
同 二十六年	一五、三一〇

セントアワルス開門及堤防工費　一二二、五三七 郡

チヤムプレー掘割同　六三七、二〇六

此航路ハモントリオルノ下四十六哩セントローレンス及リセリュー川ノ合流點ソレルニ起リ前記ノ開門ニ由リチヤンプレー沼ニ入リ夫ヨリチアンプレー掘割ヲ經セントジョン市ニ達シ又リセリュー川ニ入リチヤムプレーン湖ニ達スソレルヨリ紐育マテ四百二十一哩ナリ

第三オタワ川　(モントリオル市ヨリオタワ府ニ至ル水路凡ソ百二十哩)

セントアンネ掘割工費	一、一七〇、二二五 郡	カヒピュート掘割同
カリロン及グレンヴヰルノ兩掘割同	四、〇三五、五五三	計 七七五八、七四三 郡

本水路高低ノ差五百九呎閘門數五十五

第四リドー航路　(オタワ府ヨリオンテーリオ湖岸キングストン市ニ至ル)

リード掘割ベルス支線工費	四、五六〇、二八五 郡	三七九、四九三 郡
第五トレント航路　(オンテリオ湖岸トレントン市ヨリヒウロン湖ニ通スルヲ目的トス其間四百哩湖川中難所多ク未タ全通ニ至ラスト云フ)		
トレント掘割工費	一、〇八八、四八三 郡	五、五七五、二六一

第六セントピータアルス運河　(ノヴアスコシア州プラスド、オアル湖セントピータアル灣ヲ聯絡ス)

セントピータアルス掘割工費	六四五、九九四 郡	三七、九一〇、一二三
第七マルリー運河　(オンテリオ州クエント灣及オンテリオ湖間マルリー海峽ヲ開鑿シタルモノニシテ其開鑿延長四哩半水路改良五哩半)		
工費	一、二四七、四七〇 郡	七一、三一〇、七八四

第八スーセントマリー運河　(工事中)

ヒウロン及シュピリオル兩大湖ノ間セントマリー川ヲ以テ其水ヲ聯絡スレトモ水流急激間々瀑布ヲ爲ス故ニセントマリー島ヲ貫通シテ此運河ヲ穿チ舟楫ニ便セントス而シテ其距離三千五百尺ナリ

工費

右ノ外運河ノ收入金ヨリ費消シタル金額ハ左ノ如シ	一、四七五、三四四 郡
改築費	一、九四一、一九八 郡
修繕費	四、五五〇、八〇一
傳給及諸給	五、六〇八、一一一
即チ加拿陀中央政府ハ運河事業ノタメ七千百三十一万餘弗ヲ費セリ而シテ明治二十四、二十五ノ兩年間通船料ノ收入及通過荷物ノ數量ハ左ノ如シ	

通船料

明治二十四年	三五〇、三五一 郡	一、六四八、四二五 噸
同 二十五年	三五八、七一一	一、七一八、六〇〇

又右荷物ノ數量ノ物品ノ種類ニ依リ區分スレハ左ノ如シ

麥粉	(明治二十四年 同 二十五年)	二三〇〇〇 噸	二八五三〇
小麥	〃	三九〇、六六二五	四九五、七六七
玉蜀黍	〃	二五一、八一〇、二	二七八四〇
大麥	〃	一六五〇四	一六五〇四
燕麥	〃	六四三〇〇	九〇六八二

合計		一二、一〇〇、六六〇 郡	一、三三五、〇〇〇 郡
工費總計		五九、二一〇、一二三	一、五三五、二五〇
總費額		七一、三一〇、七八四	三三三、九二四
穀類	(明治二十四年 同 二十五年)	一、六四八、四二五 噸	一、六二四、〇四二
其他食料品	〃	一、七一八、六〇〇	一、三三三、一二四
木材	〃	七、六六、六六〇、八五	九、六六、四九一、二六五
合計	〃	一一、六四八、四二五	一、七一八、六〇〇

右記述スル所ハ重ニ計數ニシテ其要略ナレトモ人口未タ五百万ニ滿タサル一國ニシテ鐵道事業ノタメニ現金殆ト二億弗ヲ費シ土地五千六百八十八万餘ヲタメニ鐵道會社ニ現金七千百三十一万餘弗ヲ費シ以テ交通運輸ノ便利ヲ圖ル盡シ外國政府カ如何ニ民利國益ノ改進ニ鋭意ナルカヲ知ルニ足ルヘシ

○外報

緬甸

○絹業　ラングーン在勤佛國領事ノ報告ニ據レハ緬甸ノ絹業ハ目今外國品殊ニ多數ニ輸入セラルヽ英國品トノ競爭ノタメ頗ル困難ノ地位ニ立チ殆ト衰廢ニ就カントスル有樣ヲ呈シ其利甚タ薄キヲ以テ緬甸人ハ多ク之ヲ去リテ他ノ利益アル業ニ就ケリ唯多數ノ婦人ノミハ他ニ恰好ノ職業ナキヲ以テ尚ホ之ニ從事シ居レリ緬甸ニ於テ現ニ絹業ニ從事スル者ハ二万五千八アリ而シテ婦人ハ其三分ノ二許ニ居ル其執ル所ノ業務ハ紡績織物染物形置及販賣ニシテ男子ハ助手トシテ之ヲ補助スルニ過キス蛹ノ命ヲ絶ツハ宗教ノ許サヽル所ナルヲ以テ土民ハ養蠶業ニ從事セス同業ハ「ヤベイン」專ラ之ヲ營メリ蓋シ「ヤベイン」ハ其來歷ヲ詳ニセサル小種族ニシテ處々ノ村落ニ散在セル者ナリ紡績及織物業ハ多數ノ地方ニ於テ之ヲ營ムトシテ雖モ就中最モ盛ナルハ二地方ト即チ一ハ上緬甸ノマンダレイニシテ他ハ下緬甸ノプローム ナリ職工ハ工場ニ集リテ業ヲ執ラス各〻機具ヲ所有シ家ニ在リテ勞働ス而シテ其製品ハ土人ノ婦女小店ニ於テ之ヲ販賣ス又該品ノ少數ハ珍奇ノ物品トシテ歐洲ヘ仕向ケラルヽト雖モ此他ニハ絶テ外國ニ輸出セラルヽコトナシト云フ(本年六月英國商務院月報)

北米合衆國

○石油產出高　昨年八百九十三年ノ北米合衆國石油產出高ハ一昨年ノ五千五十万九千百三十六「バアレル」(一「バアレル」ハ凡ソ六斗六升)此價額二千五百九十万千四百三十六弗ニ對シ四千八百四十一万二千六百六十六「バアレル」此價額二千八百九十三万二千三百二十六弗ナリ從來同國ニ於テ石油產出高ノ多量ナリシハ千八百九十一年ニシテ此年ノ產出高ハ五千四百二十九万千九百八十「バアレル」ニ達セシカ爾來其產出高ハ漸次減少シ至レリ但シ世界石油ノ總產出高ハ毎年凡ソ八千五百万「バアレル」ニ上ルノ見積ナリ(本年六月十四日澳國商業博物館週報)

○觀象

○全國氣象　八月五日

氣壓	時刻	氣溫	時刻	風	時刻	雨雪	時刻	天氣	時刻
函館	午前	函館	午前	函館	午前	函館	午前	函館	午前
青森	午後	青森	午後	青森	午後	青森	午後	青森	午後
宮城	午前	宮城	午前	宮城	午前	宮城	午前	宮城	午前
宮城	午後	宮城	午後	宮城	午後	宮城	午後	宮城	午後
高知	午前	高知	午前	高知	午前	高知	午前	高知	午前
高知	午後	高知	午後	高知	午後	高知	午後	高知	午後
長崎	午前	長崎	午前	長崎	午前	長崎	午前	長崎	午前
長崎	午後	長崎	午後	長崎	午後	長崎	午後	長崎	午後
函館	午前	函館	午前	函館	午前	函館	午前	函館	午前
函館	午後	函館	午後	函館	午後	函館	午後	函館	午後
宮城	午前	宮城	午前	宮城	午前	宮城	午前	宮城	午前
宮城	午後	宮城	午後	宮城	午後	宮城	午後	宮城	午後
高知	午前	高知	午前	高知	午前	高知	午前	高知	午前
高知	午後	高知	午後	高知	午後	高知	午後	高知	午後
長崎	午前	長崎	午前	長崎	午前	長崎	午前	長崎	午前
長崎	午後	長崎	午後	長崎	午後	長崎	午後	長崎	午後

官報 第三三三二號 明治二十七年八月七日
官報 3332

| 區別 | | |